



被災地での災害医療

茨城西南医療センター病院

救急科 救命救急センター長 武田 多一

司会者：武田先生は、今年の4月から茨城県に赴任したそうですが、その前はどちらにいらしたのでしょうか？

武田：三重県津市の三重大学病院で医師として働いていました。

司会者：茨城で災害といえば、やはり2011年の東日本大震災ですが、武田先生はどの様に関わったのでしょうか？

武田：地震津波があった日の夜に、DMATとして出動し、茨城県・福島県・宮城県で医療支援活動しました。1週間後に、三重県で県の医療救護班を組織し、盛岡の岩手県庁へ行って岩手県陸前高田市派遣されました。それから1か月後に、NGO医療チームの医師として宮城県南三陸町で医療支援しました。その後数年は、福島県飯館村で支援活動に参加しました。

司会者：ひとくちに災害医療といっても、色々な活動があるのですね？

武田：はい。災害発生直後に飛び出していくDMATがテレビなどでも有名ですが、知事の要請で動く都道府県医療救護班もあれば、行政とは異なるNGOの医療支援もあります。

司会者：被災者としては、避難所で待っていれば、お医者さん達が来てくれると思っていれば良いのでしょうか？

武田：避難所にも様々な人達がやって来ます。その中で信頼できる支援活動をしているのは、県庁とか、保健所とか、市町村とか、地元医療機関とか、被災地の公的組織に登録し調整を受けた団体です。勝手に避難所に来て勝手に何かして勝手に居なくなる団体もありますが、信頼できないこともあります。

被災地の地元の保健医療体制としっかり繋がっていれば、感染症対策・重症患者の遠隔搬送・長期的なフォローアップ・医療過誤対策・等に繋がります。信頼できる医療チー

ムは、県庁・保健所・市町村・地元医療機関で登録し調整を受けた医療チームです。

司会者：県庁・保健所・市町村・地元医療機関での調整が大切なのですね。では、病気やケガをした被災者の方から医療と繋がるには、どうすれば良いのでしょうか？

武 田：避難所に避難する場合も、在宅で避難する場合も、避難所や自治会などの受付窓口や代表者に相談し、被災した避難者がその地域に居ることや病気やケガの状況を、市町村に伝えて、市町村と繋がっていることが重要です。そうすれば、病人やケガ人がいる地域に、市町村から派遣された医療チームがやって来る筈です。

また、避難所や地域で、被災者が自分達で相談して自主的に救護班や衛生班を組織することが求められています。救護班が、被災状況や病人やケガ人の状況などを取り纏めて、市町村に連絡したり・医療チームが来た時に報告したりできると、災害医療活動がスムーズに運びます。そして、衛生班が、トイレを確保したりや手洗いを指導したり等 衛生活動を自分達で行う必要があります。

司会者：被災したからといって、ただ待っているだけではダメなのですね？

武 田：避難所では、そこに避難して来た被災者達が自分達で避難所運営委員会を作り、自分達で手分けし役割分担して避難所の運営を行うことが求められます。

司会者：地方自治体が避難所を運営するのではないのですか？

武 田：避難所を開設するのは市町村ですが、実際の運営をするのは避難所に避難して来た人達自身です。例えば、学校の避難所で学校の先生が被災者の御世話係になる訳ではありません。

また、市役所や役場の職員が避難所で御世話係をするのは、長期的には望ましい姿ではありません。市役所や役場の職員には、災害時に行うべき役割があるのです。例えば、他の市町村からの支援を調整したり・被災者に罹災証明を出したりと、市役所や役場で行うべきで、かつ、彼らでなければできない業務というものがあるのです。

そして、保健師さんは、被災地の保健・医療・介護などを調整したり、感染症対策をしたり、健診業務をしたり、保健所や保健センターで行うべき保健師として災害時も日常も常に続けなければならない業務もあるのです。

司会者：避難して来た被災者が自分達で動かなければならないということですね？

武 田：医療チームが避難所や各家を片端から一軒一軒訪問して、病人やケガ人を探し出すには、とんでもない時間と労力が掛かります。そうではなく、避難所の代表者が被災状況や避難者の状況を毎朝確認しておき、市町村から医療チームが派遣されて来た時に、医

療を受けるべき病人やケガ人について情報交換ができれば、短時間で効率的効果的に保険医療活動が被災地でできます。被災者の動きと医療チームの動きの協調が必要なのです。

司会者：私達も、被災したからといって支援を待ち受けるのではなく、自分達でできることは自分達ですという心構えが欲しいですね。毎年の防災訓練でも、避難所運営と災害医療の連携が訓練できると良いですね？

武田：最近では、避難訓練だけではなく、避難所運営シミュレーションも全国各地で行われる様になりました。新型コロナ後の防災減災についても、皆で話し合っって一緒に訓練することが望まれますね。

司会者：今日は、災害医療と避難所運営について、武田先生の経験からお話を伺いました。

被災者としては、待っているだけではなく、積極的に避難所運営に関わったり、市町村と繋がる事が大切ということ学びました。ありがとうございました。

令和2年9月15日（火）、30日（水）放送

